

労働市場

キーワード 完全市場 不完全市場

完全市場の余剰分析

労働供給曲線と労働需要曲線 (p. 38 図 3-1)

企業の余剰：払ってもいい賃金と均衡賃金の差

労働者の余剰：働いてもいい賃金と均衡賃金の差

最低賃金制度

京都府の最低賃金は 759 円 (時間給) (地域別最低賃金と産業別最低賃金が存在する)

最低賃金の効果 (p. 46 図 3-4)

最低賃金によって死荷重が発生する。

最低賃金をめぐる意見の対立 (参考 p.55)

A. 最低賃金によって雇用が失われている。

B. 最低賃金を廃止すると、ワーキング・プアが増える。

最近では最低賃金と社会保障制度との兼ね合いも問題となる。

参考：大山典宏 [2008] 『生活保護 VS ワーキングプア』 PHP 新書。

不完全市場の余剰分析

ここでは労働市場における売り手独占を考える。(p44 図 3-3)

独占的な労働組合のみが労働力の供給を行っていると仮定。

(例：クローズドショップ型労働組合。産業別ないし職種別に組織されることが多い。組合員資格を喪失すると、その労働者は職を失う)

右下がりの形をとる労働組合の無差別曲線

⇒同一の効用水準を維持しようとするならば、賃金率を上げたら雇用量を減らさなければならない。

労働組合の無差別曲線は無数にある。企業の労働需要曲線と接する点で賃金率と雇用量が決まる。

⇒接した点の賃金率が、完全競争市場における均衡賃金よりも大きい場合、社会的余剰は減少する。